

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第60号

2018.7



水遊びだいすき！



友達が捕まえたアゲハチョウを囲んで



三角屋根の上、気持ちいいよ

## 目次

- ・今、学園では
  - 幼稚園 p 2・3
  - 小学校 p 4
  - 中学校 p 5
  - 特別支援学校 p 6
  - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10

**どろんこ どろんこ たのしいな ～3歳児きぐみ～**

幼稚園生活に、親しみを感じるようになった梅雨入りの頃。黄組の子どもたちは雨上がりの水たまりに触れてみたり、赤・青組のお兄さんお姉さんたちが泥だんごを真剣に作っているのを見たりして、心を動かし、泥と一緒に遊んでいます。遊び始めた頃は、ただただ、触れることが楽しい子どもたちでしたが、触れば触れるほどに、面白いと感じるようになり、どんどん泥となかよくなっていきました。どろどろ・とろとろ・ねとねと・ぺたぺたと、実際に手で触れることで分かる感触を存分に楽しんでいます。また、自在に形を変えることにも面白さを感じています。

泥に存分に触れると、自分たちで水を加えて泥をつくるようにもなりました。泥に水を入れてスコップでザックザック掘って混ぜます。スコップで感触を確かめながら、自分たちが楽しめそうな泥になると「今からケーキ作るね」「私はクッキーにしよう」「僕はお団子にする」と、思い思いに作りたいものをイメージしながら泥の堅さや形をいろいろにして楽しんでいます。「ケーキが焼けたよ」と声があがると「誕生日パーティーしよう」と遊びのイメージが広がり、自然と友達同士のやりとりも生まれ、楽しい雰囲気の中で泥に親しむ子どもたちです。



**ダイナミックに 砂場あそび ～4歳児あかぐみ～**

「面白そう！」と心が動いた場所で、友達や教師と一緒に全身を使って思いっきり遊んでいる赤組の子どもたち。砂場遊びは子どもたちが大好きな遊びのうちのひとつです。

大きな砂山を作っている隣では、水道から樋を何本もつなげて川ができ、水が溜まって池になり、さらに溜まって海になり……、遊んでいるうちに子どもたちのつくり出す世界はどんどん広がっていきます。

「ほら、手を入れてみて！もうすぐつながりそうだよ」と、砂山にトンネルを通したくて、どんどん掘り進めていきます。友達と指先が触れた瞬間「ヤッター！」と、あがる歓声。その声と楽しそうな雰囲気に誘われて、自然と人が集まってきます。

砂場の外に流れ出た水を使って、園庭の端まで川を延ばし、バシャバシャと裸足で水の感触を楽しみます。「この辺はあったかいから、足の温泉だよ」「私も入れて」「いいよ、一緒に入ろう！」「お日様が当たってるからあったかいんじゃない？」と、五感を通してダイナミックに遊ぶことで、友達同士の会話も心もつながっていきます。



## カレーライスパーティーまでの道のり ～5歳児あおぐみ～

## ♪収穫♪

昨年度、青組さんがまだ年中児だった時に当時の青組さんと植えたジャガイモ。芽を出し、茎を伸ばし、青組さんのようにぐんぐんと生長しました。紙芝居から「葉が枯れてきたらジャガイモができたサイン」と知っていた子どもたち。畑の近くで虫取りしている人が「あれ？昨日より枯れている？食べ頃？」と気付いたようで「ぬこう！」「青組さんみんな呼ぼう！」「おーい！ジャガイモ食べられるよ！」と呼び合い、あっという間にみんな集合。根元から一気にぬきました。「わ～！こんなにジャガイモがついとるで！」「赤ちゃんジャガイモや！」「24個あった！」と歓喜の渦。その中でも昨年度転出したお友達を思い「ぼくのジャガイモ、〇〇くん送到って！」と一番大きいジャガイモを差し出す姿が素敵でした。離れていても大切な仲間を変わずに思う心や共にうれしさを共有したいという思いに感動しました。



## ♪準備♪



教師が「ジャガイモがとれたらどうする？」と聞くと、もちろん答えは「カレーライスパーティー！」です。昨年度の青組さんがしてくれた楽しくておいしかったパーティーが心に残っていたので、「飾り付けしよう！」「看板も作ろう！」とどんどん意見が出てきます。毎日飾りや花を作ったり、舞台を飾ったり、カレーライスの歌を楽しんだり…それぞれがパーティーに向けて思いを高めていきました。



## ♪いよいよ本番♪



「おはよう！」の声がいつもとは違います。やる気がみなぎっています。調理が始まると「包丁で切るときは、手は猫の手だよ！」と教えてくれる子どもたち。切るときはどの人も真剣。待っている人は、次に自分が切りたい野菜をもう握りしめています。ぐつぐつ煮えてくると「あ～いいにおい！」とわくわくが増します。そしてついにカレーが完成！ようこそカレーライスパーティーへ！」とみんなで声をそろえて発表し『カレーライスの歌』を届けると、年少・年中組さんや先生たちが拍手してくれました。そのときの子どもたちの顔は、少し照れながらも誇らしげで、うれしくてたまらない、そんな表情でした。カレーを年少・年中組さんにつぐときは「多め？少なめ？」と腰をかがめて一生懸命聞いています。きっと去年の青組さんが、そうしてくれたのでしょう。このようにしてもらってうれしかった体験が、また次の温かなかわりにつながっていくのかもしれない。パーティー終了後「〇〇くんが、4回もおかわりしてくれた！」と報告してくれました。自分が種芋から育て、収穫・調理したものを目の前で「おいしい！」と笑顔で食べてくれた体験はとても貴重です。一人一人が主体的に取り組む中で、みんなでやり遂げた満足感を味わうという豊かな体験の詰まったパーティーとなりました。



## 研究主題

## 互いに磨き合い、学び続ける子どもの育成（仮）

## —個の発達に応じ、メタ認知を促す授業づくり—

本校では、今年度より上記のテーマを設定し、各教科の見方・考え方を生かして自ら考え、友達  
の考えに耳を傾けながら、粘り強く追究していく子どもを育てることをめざして研究を進めていま  
す。授業づくりでは、これまでの研究成果を生かしつつ、メタ認知を促す働きかけを工夫していま  
す。今年度の教育研究発表会は、1月24日（木）、25日（金）に行います。先生方のご参会、また  
保護者の方のご協力を、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ■ ◆ ■ 研究授業 ■ ◆ ■

## 2年 図画工作科「新聞紙の形を変えて楽しもうーしんぶんしとなかよしー」 造田 朋子



子どもたちにとって身近な新聞紙を材料にして、思いのままに形に表していく造形  
遊びを行いました。子どもたちは新聞紙を並べる・つなぐ・破る・丸める・ねじる・  
垂らす・積む等の造形的な活動を行う中で、材料の特徴などを感覚で捉えたり、形か  
らイメージを膨らませたりしながら、面白い形をつくっていきました。まずは、たく  
さんの新聞紙をねじって、つないでいった形を見て、「もっと伸ばして、くねくねさ  
せよう」と、自分の作品をつくりながら、より面白い形にするための工夫を見付けて  
いきました。このように、新聞紙をねじったり、つないだりする楽しさを味わった子  
どもは、友達のかつた形を見て「私のくねくねへびに丸い新聞紙をくっつけたら、

【自分も変身】ほこほこの模様がついて面白いかもしれない」と友達の工夫の面白さに気がき、自  
分の形に取り入れる姿が見られました。

このように製作の中で、友達とできた形を紹介して面白さを見付け  
合ったり、もっと面白くなるようにアドバイスし合ったりすることで、  
より面白い形ができることに気付いたり、友達から学ぶ喜びを感じたり  
することができました。

この造形遊びを楽しんだ子どもたちは、身近な物が造形的な活動の材  
料になることに気がき、「先生、僕、家でもつくったよ」と何人も教えて  
くれました。授業だけの学びではなく、楽しい生活を創造しようとど  
きていたようです。



【ろく木にお化け屋敷をつくる】

## 4年 社会科「そのごみ、どうなるー民間企業が変えるごみの処理と利用」 滝井 康隆



【流れ図を使って考える】

子どもたちは、自分たちが捨てているごみにはどのような種類があるのか  
を調べ、生活の様子から大きく4つに分けて捨てられていることに気がきまし  
た。そして、それらのごみがどのように処理されているのかを調べていくこと  
にしました。そこで、坂出市の角山環境センターを見学することにしました。  
施設の方から、焼却処理をしていることを教えていただいたり、ごみを燃や  
しても灰が残ること、灰は坂出環境センターに埋めているという新たな問題が  
あったりすることも知りました。話を聞いた子どもたちは、坂出環境センタ  
ーがいつかいっぱいになってしまうという問題をもちました。資源ごみの処理の  
仕組みを捉えていく中で、ペットボトルやびんは、県外の民間企業によつてリ

サイクルされていることを知り、坂出市の行政が行うべきごみの処理にどうして民間企業が関係し  
ているのかを考えていきました。その手がかりとして、これまでの学習を自分でまとめている流れ  
図や資料を基に、民間企業がリサイクルしている理由を話し合い、友達の意見を取り入れたり質  
問したりして考えを深めていきました。民間企業にリサイクルを任せること  
で、坂出市は新たに工場を建てる税金を使わずに済むこと、民間企業は集め  
られた資源ごみをリサイクルすることで商品を作り、お金を稼ぐことができ  
ることを捉え、行政と民間企業の両者によって自分たちのごみが衛生的に処  
理され、再利用できるようになっていることを明かにしていきました。授業  
終末の振り返りでは、授業中に感じた疑問を書いた付箋を交流し、班で解決  
できる問題は自分たちで考え、みんなで考えたい疑問を発表することで、分  
かったことともっと知りたいことを明確にすることができました。



【はてな付箋の交流】

6月8日(金) 研究発表会

## 「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」 —主体×主体の関係が生み出す深い学びをめざして—

6月8日(金)、平成30年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。当日は、県内外の幼・小・中・高・大学および教育関係機関などより700名を超える参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。今回の研究では、「ものがたり」の授業による深い学びをめざして、特に「深い学びを生み出すための問いのあり方」と「聴き手を育てる教師のかかわり方」について提案しました。

### 総合学習CANの発表



### 公開授業(教科)



【家庭科】



【社会科】



【技術科】



【数学科】



【美術科】



【保健体育科】

### 講演

上智大学総合人間科学部教授の奈須正裕先生には「『ものがたり』による学びの変革とこれからの学校教育—情報の伝達から意味の形成支援へ—」という演題でご講演いただきました。一人ひとりがインフォーマルな知識や経験にもとづいて具体・特殊・個別な文脈から対話する中で、抽象・一般・普遍へと到達する学びこそが確かな学びになることを、本校研究にそって具体例をあげながらわかりやすくご提案いただきました。



### 研究大会を振り返って・・・

各教科等の研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声が寄せられました。また、生徒たちが自ら主体的に学び、語り合い、応じる姿にも高い評価をいただきました。これも本校生徒一人ひとりの頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解があつてのことと深く感謝しております。そして、今大会の成果と課題も踏まえ、今後も本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っております。

## 交通安全教室

本校では、年度始めに、危機を予測し、安全を確認しながら適切に判断し、行動ができる力を高めるために、交通安全教室を行っています。

今年度は、各学部の実態に応じて、部ごとに交通安全教室を行いました。また、警察署と市役所共働課にもご協力をいただきました。

### 小学部



小学部では、体育館に横断歩道と信号機を設置して、信号機の見方と横断歩道の歩き方を学習しました。ポイントは、「①赤とまる ②右、左、右 ③手を挙げる」です。信号が変わるまで待って左右を確認して手を挙げて渡ることができた児童がたくさんいました。坂出警察署の方にも見ていただき、ご指導をいただきました。横断歩道では前を向いて歩くことを教えていただきました。小学部のうちは、一人で出かける機会はありませんが、知っておくと中学部や高等部に進んだとき、安全に行きたい所に行けるようになるので、普段から意識できるよう継続して指導していきたいです。

### 中学部

中学部では、最初に警察署の方から交通安全に関するお話をうかがった後、二つのグループに分けられました。「スクールバス・送迎」グループは、実際に府中駅まで歩き、その中で、横断歩道の渡り方の練習をしました。



「自転車」グループは、市役所共働課の方から、踏切の渡り方や停車している車の横を通る際の注意点を教えていただき、踏切に見立てた場所を実際に渡ったり、とまっている車の横を通ったりする練習をしました。教えていただいたことを、実際の生活で生かせるように、校外学習や貯金などで校外に出るときは、確認していきたいと思います。

### 高等部



高等部では、最初に警察署の方からお話をいただいた後、「自転車」「スクールバス・送迎」「JR」グループに分かれて、実際に路上で練習しました。「自転車」グループは、踏切を渡る前に一度下車し、自転車を押して踏切を渡り、渡り終えたら乗車することを警察署の方から教えていただきました。また、帰校後、自転車点検の仕方も共働課の方から教わり、自転車点検を行いました。「スクールバス・送迎」「JR」グループも路上を歩き、左右の安全を確認して横断歩道を渡ったり、静かに駅のホームで待ったりしました。折に触れ、継続して指導していきたいと思います。

## 特別支援教室「すばる」について



特別支援教室「すばる」は、平成15年度に、通級指導教室のモデル事業として設立されました。「すばる」では、地域における特別支援教育の充実を図るために、4つの事業（①教育相談事業、②個別指導事業、③研修教育事業、④研究開発事業）を行っています。「すばる」のスタッフは、香川大学教育学部・香川大学大学院教育学研究科の教員と附属坂出小学校・中学校・特別支援学校の教員で構成されています。場所は、附属坂出中学校の西側、坂出商業の北側に位置する2階建ての建物になります。1階には、個別指導室兼教育相談室やプレイルーム兼研修室等があり、主に個別指導や教育相談の場として活用しています。2階には、スタッフと長期研修生の職員室や特別支援教育コーディネーターコースの院生用の研修室等があり、それぞれ日々の研修や指導の準備、「すばる」の運營業務等を行っています。



### 【特別支援教室「すばる」の4つの事業】

#### ①教育相談事業

保護者や学級担任に対し、教育・就学・進路等に関する相談と助言を行っています。日常の学校生活における指導・支援方法、集団参加等の具体的な対応方法や家庭でのかかわり方等をアドバイスしています。平成29年度は、電話相談を含め116件の教育相談を実施しました。

#### ②個別指導事業

香川県下の幼稚園・保育所に通っている就学前児、小学校・中学校の通常の学級に在籍している特別な教育的ニーズのある児童・生徒を対象に、放課後、指導者と1対1の個別指導の形態で、教科学習および社会性育成等について個に応じた指導を行っています。年度を3つの期間に分け、各期で週1回60分の指導を9～10回実施しています。個別指導では、アセスメントからお子さんの特性を把握したうえで、一人一人に応じた教材教具を使用し、できることや分かることが少しずつ増えるように、また、自信をつけたり自分に合ったやり方を見付けたりできるように指導・支援を行っています。子どもたちは、毎週、すばるでの学習を楽しみにしてくれています。平成29年度は、第1期：168回、第2期：161回、第3期：116回、合計445回の個別指導を実施しました。

#### ③研修教育事業

現職教員等を対象とした理解・啓発のための研修や、各学校の特別支援教育コーディネーターを対象とした専門的な研修を実施しています。また、研修教育事業の一環として、香川県教育委員会より毎年2名の現職教員を長期研修生（1年間の内地留学生）として受け入れています。さらに、本教室は香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻特別支援教育コーディネーターコースの指導実習の場となっており、大学教員の指導のもと、院生（現職派遣）が個別指導を実施しています。

#### ④研究開発事業

学部教員ならびに附属学校園教員と共同して、心理アセスメント、教材開発、指導法等に関する研究を推進しています。

☆詳しくは、HPをご覧ください。 <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/>

## 幼稚園より

## 土曜メンテナンス

5月26日（土）、今年も晴天の中、土曜メンテナンスが行われました。

昨年同様、幼稚園、小学校、中学校から、親子で87人もの参加者が集まりました。

各保育室のお掃除や、リズム室の大型積み木のやすり掛けなど、子どもたちも一緒に一生懸命取り組む姿が見られました。また、園庭には、お父さんたちがペンキで様々な色を作って塗り上げた、とても素敵な虹色のうんていが完成しました。

子どもたちがいつもお世話になっている園舎と園庭がきれいになったとともに、保護者間の親睦も深まり、充実した半日になりました。



## 絵本の読み聞かせ

毎週水曜日に、赤組と青組の保護者による絵本の読み聞かせが行われています。

保護者が選んだ「とっておきの一冊」を、子どもたちはお話の展開にわくわくしながら、目を輝かせて聞き入っています。読んだ後の子どもたちからの大きな拍手に、保護者も胸を熱くしています。



## 小学校より

## 平成30年度 松韻会・後援会 総会開催

4月20日（金）授業参観後、小学校体育館にて松韻会総会が開かれました。

今年度の活動テーマは、「ALL松韻会の絆の繋がり」です。総会では平成29年度の事業報告・会計報告、平成30年度の事業計画案・予算案などが審議

されました。中学校の段階的の会費の引き上げ（生徒数減少による）が提案され承認されました。引き続き、後援会総会も開かれました。総会終了後、エコライフ部会より、回収した制服・体操服等のリサイクル販売が行われました。売上は86,250円でした。ご協力ありがとうございました。



## ウエルカムパーティー

今年も、松韻会主催で新1年生親子を対象にウエルカムパーティーを開催しました。5月19日（土）にたくさんの1年生親子兄弟が小学校体育館に集まってくれました。（1年生61人、保護者66人、兄弟14人）グループに分かれて自己紹介から始まり、小学校や担任の先生にちなんだ〇×クイズや、新聞紙を使ったゲーム、フラフープを使った親子競争を楽しみました。後半は、保護者の皆さんは各クラスに分かれて学級懇談を行いました。担任の先生とのお話はもちろんですが、今年度は2年生の常任委員の方にも参加してもらいました。1年先輩の親として良いアドバイスがあったと思います。学級懇談中、子どもたちは体育館をいっぱい使って、引き続き松韻会考案の様々なゲームで盛り上がっていました。新1年生にとって小学校生活のスタートとして思い出に残る楽しい行事だったのではないのでしょうか。





## 中学校より.....

### ウェルカムランチ

4月20日（金）松韻会総会終了後、家庭科室において一年生の保護者の方を対象に「ウェルカムランチ」を開催しました。約50名の保護者の方にご参加いただき、軽食と飲み物を囲んで、和やかな会となりました。

自己紹介では、お子様の特技や夢中になっていることとお話いただき、お子様に対する愛情が感じられ、とても温かい雰囲気になりました。また、様々なお悩みに対し、先生方や他の保護者の方からアドバイスやご意見を聞くことができ、不安な気持ちが解消された様子でした。



### 土曜メンテナンス

6月2日（土）土曜メンテナンスを実施しました。

松韻会では、「保護者の絆づくり」を活動の中心に掲げており、中学校だけでなく、幼稚園、小学校の皆様からもご協力いただき、40名を超える参加者で正門周辺、中庭を中心に、清掃・メンテナンスを行いました。

校内がきれいになっていくことの喜びを分かち合いながら保護者同士の交流も深まった、充実した時間となりました。



## 特別支援学校より.....

### おとうさんが感じた「春の運動会」

去る5月13日（日）、支援学校では春の運動会が開催されました。

今年は残念ながら雨天が予想されていたため、あらかじめプログラムが半日になってしまいました。予想通り10時頃から雨が降り出したため急ぎょ体育館に移動することになりましたが、先生や保護者の素晴らしいチームワークで全員が素早く移動を行うことができ、運動会は滞りなく継続されました。体育館で運動会ができるのか？半信半疑でしたが、意外にも60人の児童生徒はきっちり舞台の上に、また保護者たちも即席の応援席に収まってしまったのです。狭い体育館ではさらに一体感が高まり、無事にすべての競技を予定どおりに終えることができた次第です。楽しいお弁当の時間はありませんでしたが、あらかじめそれ分かっていたのでお母さんたちは少しホッとしたかもしれません。

支援学校の子どもたちは、毎年、目に見えるような顕著な成長があるとは限りません。しかし、どの子も一生懸命クラスメートと共に演技や競技に取り組んでいます。そんなひたむきな姿を見て、私たち保護者は子どもたちから元気をもらっています。少数精鋭？が幸いし、保護者同士の連帯感も強く、全員がまるで家族のように運動会を楽しんでいます。一部の保護者からは、「子どもたちと一緒に参加できるプログラムをもっと増やしてほしい」との声が上がっているほどです。もはや「家族運動会」と呼んでもいいのかもしれませんが。「ほっこり」して「ほちほち」と「ゆったりした」感じで、そして「しっかり」「きっちり」するところはそれなりに、アットホームな春の運動会もいいものです。松韻会の皆さんもどうか一度「春の運動会」をのぞいてみてください。

### 親和会



よりよい生き方について考えました

5月29日(火)に校内弁論大会が行われました。「社会を明るくするために」というテーマについて全校生が書いた作文の中から、各クラス1名が代表者として発表し、2年生の黒川若葉さんと3年生の赤垣希実さんが学校代表として選ばれました。



【黒川若葉さん「当たり前」】

黒川さんは、「当たり前」という演題で、小学校のときに友人をなくすという悲しい出来事を通して、私たちが日頃気づかない「当たり前」の大切さについて語ってくれました。自分のつらい思いや悲しい経験は、他者への感謝の気持ちに変えてゆけるものであることに気づかせてくれました。

赤垣さんは「点を線にする行動」とは何か、について語ってくれました。点の連続が線となり、つながっていく。しかし「点」を打たなければ線にはならない。勇気を出して「点」を打つことの価値を述べてくれました。



【赤垣希実さん「点を線にする行動」】

344名全員が、「よりよい生き方」について考え、クラスや全校で自分の考えを発表し、それを自分のことのように真剣に聴く。このような時間を大切にすることで、学校全体に自分や他の人の命を大切に、社会の一員としてのあり方を学ぶ機会にもなりました。

中学校

坂高連携が2年目を迎えました

昨年度に引き続き、坂出高校と連携を行っています。本年度も1年間で7回の交流を予定しています。



小学生は、高校生との過ごす時間を毎回、楽しみにしています。2回目の連携では、給食を一緒に食べたり、昼休みに運動場で遊んだりして、楽しい時間を過ごしました。



給食の時に、「どんなスポーツが好き」と高校生に尋ねたり、「昼休みにケイドロして遊ぼう」と遊ぶ約束をしたりして、心を通わせていました。3回目の連携では、体育の水泳の学習で平泳ぎの足の動かし方の手本を見せてくれたり、家庭科の裁縫の学習で「玉どめ・玉結び」の仕方について一つ一つの活動を丁寧に教えてくれたりしたため、小学生は、「なるほど、ここに糸を巻きつけるんだ」と喜びを感じていました。

連携を重ねる度に、子どもたちは坂高生と心の結びつきが強くなっていっています。一つ一つの活動がお互いにとって意味のある時間になっているようです。

小学校

特別支援学校

横断幕が新しくなりました！！

本校の部活動は、県内の知的障害教育校5校との対抗戦で、ソフトボール大会、水泳大会、卓球大会、駅伝大会に出場しています。その大会のときには、選手を応援するように必ず横断幕が掲げられますが、その横断幕が約10年ぶりに新しくなりました。これまでの横断幕には「Victory」の言葉が書かれており、勝利に向けての気持ちを支えてくれました。今回新しくなった横断幕は、写真にもあるように、やまも色の生地に白抜き文字で「のびのびと さわやかに たくましく」の言葉が書かれています。これは校歌中の言葉を取り入れたものであり、生徒にとっても聞きなじみのあるフレーズのため、この言葉を見ると自然と力が湧いてくるようです。新しくなった横断幕が見守ってくれる中、生徒たちも一層頑張ってくれると思います。



応援団の声を後押し



新しい横断幕と記念すべき初撮影

幼稚園

愛情たっぷり手作りおやつ

幼稚園では午前保育の日、おやつを食べています。その内、年に10回程度、お母さんたちによる手作りのおやつを作っていただいています。季節を感じられ工夫をこらした手作りおやつは子どもたちに大好評。配膳されたとき「うわぁ」と思わず声がこぼれます。幸せそうにおやつを食べる子どもたちの顔を見て、お母さんたちにも笑顔が溢れます。手作りおやつをいただく時間は、誰もが笑顔の幸せなひとときです。



1回目 5月23日  
【フローズンフルーツ】  
新鮮なフルーツを凍らせたことで、自然な甘みを感じられました。



2回目 6月6日  
【フルーツポンチ】  
十分冷えたフルーツと寒天と白玉のハーモニーが暑い日にピッタリでした。



3回目 6月13日  
【キラぼしアイス】  
お好みでイチゴソースをかけて、自分好みの味を楽しみました。

編集後記

5月下旬の保育参加日は、あいにくの雨でした。しかし、子どもたちは園庭へ散歩にでかけ、水たまりで水しぶきを上げたり、園庭に座り込んで泥水の感触を楽しんだり、カエルの出現に驚いたり、雨の日の楽しみを身体いっぱい味わっていました。その傍らには子どもと共に雨を楽しむ保護者の方々の姿があり、胸が温くなる一日でした。

また、「子どもとの接し方の影響を考えよう」と題して、保護者同士で語り合う時間をとりました。他の保護者の子育てを垣間見たり、自分の子育てを振り返ったりする中で、多くの歓声が上がっていました。これからも楽しく連携を深める機会をつくっていきたいと思います。

今後とも皆様方のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

発行年月日：2018年7月18日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

桑原 育子 (附属幼稚園)

樽本 導和 山路 晃代 (附属坂出小学校)

石川 恭広 大西 光宏 (附属坂出中学校)

大西 祥弘 妹尾 恭子 (附属特別支援学校)